

仙台市春季大会

平成26年4月6日(日)
仙台市 宮城野体育館



今年で17回を迎えたミニテニス春季大会は、51チームがエントリー白熱した戦いが展開された。運営は皆んなで、写真右はコート設営の選手達と左は受付をする協議担当理事。



3部六郷優勝

左から 堀口 高橋 渡辺の3選手

試合は7ポイント3ゲームマッチ。各部を二つのブロックに分かれ、1チーム4試合を戦う特別リーグ戦を行い、ブロック1位同士が10ポイント1セットマッチの決勝戦を競った。

開会式では、南小泉チームの江村征祐選手は「練習で習得したミニテニスの技を駆使し、テッペン目指し頑張ります」の宣誓に、選手たちは新年度のスタート戦に意欲が漲っていた。大会は、年間成績による3部制の団体戦で、チーム毎女子、混合、男子の3パートで編成する。

若林A、流をつくった1番手女子ダブルスの齋京子・工藤真美の両選手は「これからもいい



2部若林A接戦制 『若者たち力発揮ふる回

強烈なスマッシュの漆沢孝浩選手は「団結の優勝」と言葉少なに語り、若きエースの責任も漂う。表彰式で、右から工藤真美、漆沢孝浩、丹後宏次朗の3選手

荒浜は強かった。壁を破るのは何時、何処で、どのチーム・・・？

(仙台市 渡辺 勝利)



写真右から、中澤友佑、中澤理恵、菅野儀仁の3選手

1部V 荒浜A

場面ですっかりと結果を出したい」と口をそろえた。

仙台市民総合体育大会

仙台市ミニテニス第18回大会が平成26年4月20日、仙台市体育館で47チームが1部、3部で熱い戦いを繰り広げた。開会式では写真左吉成チームの沖野永一、濱田淑美の



両選手は「肩の痛み腰の痛みに耐え若者に挑戦し、勝っても敗けても楽しくプレー・・・」と宣誓に会場はあたたかい霧に包まれた。

1部荒浜A連覇

荒浜Aは2-1で連坊A接



戦を制し連勝をのびました。写真中央、平成生まれの中澤千晶選手は

優勝カップ授与に満面の笑顔で「優勝も嬉しいが試合を通じていっぱいお友達ができたのが何よりも嬉しい、次の大会が待ちどろしい」と目が輝いていた。

国見ヶ丘A 2部制す

1-1でむかえた男子ダブルス戦、若林A渡邊選手は右足ふくらはぎ痙攣で不戦敗、渡邊

は「大変申し訳ない」と俯いた。写真左は、優勝し表彰台での国見ヶ丘A女子選手。須藤市子



選手写真右は「嬉しい、自分ができるプレーを精いっぱいした」と目が輝いていた。

3部V大和C

2-1の接戦を制した大和C、混合戦にでた荒木佳子・里奈選手の親子ペアは「試合前は緊張していたけど、始まったら自分たちのプレーに専念できるととても楽しかった」と口をそろえ笑顔を浮かべた。

写真、優勝に貢献した大和Cの女子選手たち。



決勝戦2戦連続惜敗のれもんチーム千葉准子選手は「チームは粘りを見せたが一步およばなかった。次ガンバります」とさばさばしていた。

今大会はエントリー47チームの3部制、試合は予選からヒートアップ。フルセットにもつれる試合が続出、レベルの高いプレーに幾度となく観衆を唸らせていた。

(仙台市 渡辺 勝利)

講習取得資格審判員公認

平成26年5月4日、仙台市の若林体育館で講習会が開催、29人の日本ミニテニス協会公認審判員が誕生した。

講師の先生は、日本ミニテニス協会、常任理事・事務局長の馬場井宏至氏と武田純一常任理事の2氏。写真。左から馬場井宏至氏と武田純一氏の両講師。



馬場井氏は「お年寄りがスポーツを通じて楽しみを見つけ、何か目標をもった日々を送れたら」こんな発想から「シルバー

健康体力づくりという名称で、昭和61年度から立川市教育委員会が市内各地を巡回した教室から始まった」などとミニテニス誕生の概要を話された。主審は、競技に関する全ての責務を持ち、受持つコートにおいて最も重要な役目を持つ。特に大きな声、大きなハンドリングは選手たちからの信頼を得る。審判員の守備範囲、用語、個人戦の予選リーグ成績表3ゲーム、2ゲームマッチの記入



＝写真＝熱心に講義をうける受講者たち

方法などを学んだ。午後からは体育館に会場を移し審判実技を行った。



＝写真＝上主審、副審の守備範囲や動作について線審のフラックのシグナルの指導の後審判員の用語等詳しく説明、試合形式で（主審・副審・線審）の指導に馬場井・武田、両講師は解りやすく丁寧な指導をなされていた。



＝写真＝両講師を囲み記念撮



＝写真＝上29人一人ひとりに日本ミニテニス協会審判員公認認定書が授与された。

影。仙台駅前、御酒印船に移動乾杯の後意見交換会を行い、有意義な審判講習会であった。馬場井さん、武田さん両講師に心から感謝・・・（仙台市 渡邊 勝利）

全国親善仙台大会 平成26年7月6日 宮城野体育館

民局文化スポーツ部スポーツ振興課、参事兼課長、佐藤康行様ご来

全国ミニテニス親善仙台大会 全国ミニテニス親善仙台大会



復興を目指した親善仙台大会は全国から49チームが参加盛會に開催された。開会式では写真右、仙台市体育協会、斎藤建雄会長。左、仙台市市

ミニテニス協会理事長、大住ミニテニスクラブ代表の八嶋友喜選手は「日頃の練習を充分発揮し生涯スポーツミニテニスを通じて有意義な親善交流を深めることを誓います」の宣誓に温かい拍手が湧いた。続いて、恒例の始球式を行った。ご来賓の斎藤建雄会長、佐藤康行参事のナイスボレーに会場は和やかな雰囲気包まれた。試合は、6ポイント3セット



賓のお二人は「ようこそ仙台に・・・皆様のご健闘ご活躍を期待します、頑張ってください」とご祝辞をいただいた。続いて写真左、(秋田市



＝写真＝優勝の小室吉彦選手は「嬉しい、チャンスボールはコースを狙いしっかりと打てた」と語った。

マッチ、決勝トーナメント戦は、10ポイント1セットマッチ。5-5になった時SR戦を行う。決勝トーナメント戦は、9ポイントでSR戦を行う。試合は、予選からヒートアップ。フルセットにもつれる試合が続出した。レベルの高い試合に、応援団からは幾度となく歓声上がる。そんな緊迫した雰囲気にも、コート上では汗と笑顔が飛び交っていた。
A部門決勝戦は、チームバッチスター(埼玉県)ー外旭川+2(秋田県)、バッチスターは予選から絶好調、決勝戦も流を維持し3-0で初優勝した。

マツチ、決勝トーナメント戦は、10ポイント1セットマッチ。5-5になった時SR戦を行う。決勝トーナメント戦は、9ポイントでSR戦を行う。

督兼選手写真左は「女子選手たちが持ち味を發揮。的確なポジショニングで相手のスマッシュを好レシーブ、得点につなげた優勝」と選手達を褒めた。
B部門準優勝(秋田県、AKBチーム)
宮崎県、みやざきフェニックスの菊池和義さんは「良い交流ができた」と語ってくれた。
(仙台市 渡辺 勝利)



＝写真＝
B部門優勝の秋田県、外旭川+2チーム
男鹿なまはげの選手達。安藤安郎監

会長兼選手の杉崎裕之さんは「優勝まで3年かかった・・・大会レベルの高さを実感した」と熱戦を振り返り流れる額の汗を拭った。
A部門準優勝(秋田県、外旭川+2チーム)

若林A 今季2勝

仙台市夏季大会



仙台市青葉体育館で7月20日に開かれた平成26年度仙台市ミニテニス夏季大会には、50チーム、365人のプレーヤーが参加。1部〜3部の頂点を目指して熱戦を繰り広げた。



の成果を發揮し、正々堂々とプレーし、この宣誓の会場はやる気が漲っていた。

開会式では、木村勝好氏・古山健造氏の両参与は「水分補給はこまめに、怪我等に留意し楽しいプレーを・・・」と挨拶があった。続いてTNB島貫真史選手⇨写真⇨左は「日頃の鍛錬

大会は3部制、各部を2つのブロックに分け上位1チームが決勝戦を戦った。

荒浜Aに死角なし⇨

1部 七郷Aに3-0
突出したプレー・予選からの5試合1セットも落とすことなく完全優勝を成し遂げた。全国大会等でも常に上位を維持している荒浜A末永薫選手は「いい守備からいい攻撃につながるのが大事、しかし、若い選手たちの成長は著しい、追われる立場、練習に精進しなければ」と語った。



⇨写真⇨荒浜A
右から中澤友
佑・中澤千
晶・菅野義仁、
の活躍した3
選手。

七郷A 協会No.1相手に力を出しきった大泉優真選手は「強い相手に全力でプレーでいた。いい経験にしたい」と言い雪辱を誓った。

3部 れもん接戦制す

大和Cに2-1、1勝1敗でむかえた混合戦9-6のラリー、相手のスマッシュが僅かにサイドラインを割りゲームセット。



=写真=表彰式の(れもん)予選から厳しい戦いの連続だった。汗を流した仲間を信じての優勝と口をそろえた。

2部V・若林A
予選から絶好調の若林A、決勝戦の相手はミントB。3試合同時スタート、1勝1敗となり残る混合戦は追いつ追われつのシーソーゲーム、9-9となりミントのリターンがネットを揺らし15分館の熱戦が冬つた。



=写真=右から、優勝に貢献した菅原範子、漆沢孝浩、丹後宏次朗の3選手は、試合を重ねるごとにチームのまとまりが良くなってきたと口をそろえた。左は、16分間の接戦を制した菅原範子選手。

スポ・レクフェスタ '14

H26年9月7日
若林体育館



ご健闘ご活躍を期待
しますとご挨拶をい
ただいた。続いて七
郷Aチーム古賀昭則
選手 写真 左は、



52 チームがエン
トリーした、スポ・
レク祭ミニテニス大
会が盛会に開催され
た。
開会式では、若林
区まちづくり協議会
日下覚実会長 写真
左は、選手諸君の

1部 V JOY・A
決勝戦は、ミニトA―JOY・A、1―1でむかえた女子ダブルス戦、両チーム、エース同士の対決、多彩な技を駆使しての両者の攻防は女子ながら天晴れだ。7―9でむかえたミニトA須田みき選手のスマッシュが僅かにベースラインを



強烈なラリーを展開した大和Aチームの手前、荒木栄之進選手のスマッシュと小田浩一選手

「まつりにふさわしく楽しいプレーを・・・」と宣誓。
試合は予選からヒートアップ、追いつ追われつの熱戦が続く。ミニテニス特有の前後左右に曲がる変化球や強烈なスマッシュは迫力満点だ。



写真 上、初優勝のTNB・B 右から、小林勝彦、島真央、藤真喜の3選手

3部 V TNB・B

は対戦した相手は全て意気込みを感じ強かった。それでも優勝できて嬉しい」と話した。



割りゲームセット。
優勝を手中にしたJOY・A 島影愛選手 写真 左は「今大会



JOY・A、左から、島影愛熊谷陵司、佐々木悠亮の3選手



国見ヶ丘A、右から、中村光一、加賀祐子、藤村健の3選手

手。
2部 V 国見ヶ丘A
国見ヶ丘A―Bの戦いは2―1でAチームが接戦を制し今季2勝

(仙台市 渡辺勝利)

MT愛好者 実技学ぶ

市内各地から 若林体育館に参集



仙台市若林体育館・
 仙台市ミニテニス協会
 共催のミニテニス講習
 会は、平成26年9月6
 日、仙台市若林体育館
 で開催された。
 開会式では、若林体
 育館田中壮館長(写真上
 左は、「ミニテニス特有

の技術をしつかりと学
 び、ミニテニス人生の
 糧にして頂ければ幸い
 です・・・」と挨拶が
 あった。



最初に概略の理論の説明を
 行った。「グリップの握り方、
 イースタウン・ウエスタウンの
 握り。ボールを打つための基本
 動作では、常に正しい打点でボ
 ールを捉えることやテイクバ
 ック・フォロースルーの必要
 性などの説明があった。



=写真=上 講師は、日本ミニテニ
 ス協会公認指導員・審判員

実技では、脚力・すばやくボ
 ールの目的地へ移動、ステップ
 ワーク・正確なポジションに入
 るための微調整、サスペンショ
 ン・上体(目線)をぶれないよ
 うにするクッションの動き等
 のフットワークのあと、フォ
 ア・バックの打ち込みのあと試
 合形式を行い、指導者から一言
 づつのコメントを頂いた。



=写真=上 左から、構えの姿勢をとる荒町チームの高橋みのりさん、中 強烈なスマッシ
 ュの連坊チーム北條知子さん、右 カットボールを打つ鶴ヶ谷チームの色川まさ子さん

(仙台市 渡辺 勝利)

S & L 秋季大会

平成 26 年 10 月 5 日 (日)

仙台市宮城野体育館

シルバーエイジ&レディーズ大会に、宮城県内から多くのミニテニス愛好者が参集、スポーツの秋を満喫した。チーム編成は予め事務局で作成し、大会当日



発表する。選手たちはどのチームになるのかハラハラドキドキ、チームが決まるとリーダーを選んで作戦会議。

=写真=大会運営をする、左から阿部・末永・高山の協会理事

競技方法は(女W・混合・男W)の3パート、1チーム5試合行い勝率・セット率・得失点率だ順位を決定する。

写真 磐石のレシーブ姿勢で構える、右から上田敏子選手



と橘マキ子選手、二人の意気はピツタリ、好プレーを展開した二人は「対戦した相手は全て意気込みを感じ強かった。それでも勝てたのは攻めのプレーに徹したからかな」と笑顔で口をそろえた。

写真 左は、指導しながら主審をする安部宣明日本ミニテニス協会公認審判員、



写真 左、強いサーブを打つ大



友幸選手(南仙台)と大友かおる選手(大和)は「楽しくプレーができた、機会があればW大友でまた試合したいですね」と笑顔で話してくれた。

写真 左、強力なストロークの(荒町)高橋みのり選手は「ま



だまだ自分のパンチ力が発揮できない、もっともっと成長したい」と意欲みせた。

生涯スポーツは、仲間づくりが原点。大会に気持ちよく参加し、勝つても負けても心地よい汗を流し感動を得られ、次に会った時笑顔で挨拶できるような人同士のつながりができればと何時も思っている。

(仙台市 渡辺 勝利)

50チーム熱戦展開

仙台市ミニテニス協会が平成26年11月2日、仙台市青葉体育館で行われ、市内外の50チーム、355人のプレイヤーが参集。1〜3部で頂点を目指して熱戦が繰り広げられた。「相互審判、相互運営」を育んできた当協会、選手たちは早朝8時一斉



に会場設営、「ネット張り、コートの手入れ、ボール担当」など等15分程で完了だ。
 写真上 設置が終わった選手たちは、わいわいガヤガヤと開会式前の一時を楽しん

でいた。

写真左、国見ヶ丘チームの選手2



人は「もてる力を発揮し優勝目指し」と宣誓した。

一部優勝 荒浜A
 写真左、優勝を



漆山さんは「男性のスマッシュは重くて強かったです。優勝できて嬉しいです」

決めて喜びのハイタッチをする松浦洋美選手と中澤友祐選手

三部 優勝

やまがたF・C

1勝1敗で迎えた男子ダブルス戦、漆山郁子選手と写真左はじのボレーが



ベースラインをかすめゲームセット。

と満面の笑顔を見せた。

二部V 若林A



大和B―若林A 1―1でむかえた男子ダブルス戦一進一退の攻防が展開、9―7とマッチポイントを握った大和Bだったが追いつかれ、漆澤孝浩選手と写真左の強



烈なバックスマッシュが決まりゲームセット。力をつけてきた漆澤選手は「諦めずに戦ったのが結果につながった」と流れる汗を拭いた。

写真 一部優勝の荒浜Aチーム



写真左 七郷Aチーム希望の星、大泉優真選手の強烈なスマッシュ。



(仙台市渡辺勝利)

仙台市 MT 協会冬季大会

平成26年度冬季大会は平成27年1月18日、仙台市宮城野体育館に50チーム356人が参集、新春とはいえ厳しい寒さを次つ飛ばす熱戦を繰り広げた。

写真左 午前8時、一斉に受付を行う協会担当理事たち。



試合は7ポイント3ゲームマッチ。各部を二つのブロックに分かれ、1チーム4試合を戦う特別リーグ戦を行い、ブロック1位同士が10ポイント1セットマッチの決勝戦を競った。

3部 優勝 JOY・B



JOY・B―大和C予選全勝で決勝戦駒を進めた両チーム、1勝1敗でむかえた男子ダブル

ルス戦、熱い戦いは9―8のマッチポイントをむかえたJOY・B古田武選手のスโตรークがベースラインいっぱいになりゲームセット。古田選手は「年度最後を占める優勝嬉しい・・・」と目を輝かせた。

1部 V 荒浜 A

写真 1部決勝男子W戦、右荒浜末永薫選手、左、佐藤幸芳選手しろいしの強烈な打ち合いは応援団を魅了した。



荒浜A 2―1しろいし、接戦を制した荒浜A菅野儀仁選手は「相手は一戦一戦成長している、1点をめぐる勝負強さがついた」と語った。惜敗したしろいし佐藤幸芳選手は「強い相手に全力でプレーできた。いい経験にした」と雪辱を誓った。

2部 優勝 大和B

大和B 2―1遠見塚、写真優勝した大和B、相原義昭会長は



「若い選手たちが練習の成果を出し切ったの優勝」と選手たちを褒めた。

(仙台市 渡辺 勝利)



8協会 33チーム 82人 熱心に聞き入る参加者

平成27年度説明会

2015年2月15日（日）若林市民センター会議室

相互審判・相互運営をモットーに新年度に向けて恒例の説明会を行った。説明内容は多く、部制による昇降格、各種名簿の提出、大会要項など等8項目に活発な質疑応答がなされ、新年度に向けて出席者の意思統一が図られ春季大会にむけてやる気が漲っていた。

現今の当協会があるのは「生涯スポーツとしてのミニテニス、相互審判、相互運営」をみんなで一貫して育んできたからだろう。この理念に共鳴する愛好者の皆さん。「試合で対戦した方々と再開した時、笑顔で話ができるから」—そんなミ



ニテニスの誠心で、一緒に生涯スポーツを続けていきましよう。
新年会も大盛況

同日、会場を和室に移し100人を超える会員たちが集い大新年会が開催された。

安部宣明理事の司会進行により、日頃からご指導頂いている、野上忠志顧問、古山健造参与、木村勝好参与から新年のご挨拶。つづいて白石市協会平間好子会長の乾杯の音頭あった。

会場はわいわいガヤガヤ・・・思いおもいの話が尽きなく、互の親睦と友情の会場となった。

祝 親善仙台大会の二升五合瓶は、宮崎フェニックス様から戴いた芋焼酎、こくがあり大変美味しく大好評だった。

(仙台市渡辺勝利)

ミニテニス シルバー&レディース大会



写真 上 お互いの好プレーを称え合いながら笑顔で挨拶する選手達

仙台市ミニテニス協会は平成27年3月8日、仙台市宮城野体育館で男子60才以上、女子フリーの3パート1チームの団体戦5試合を行い、勝敗、セット率、得失点率で順位を決定した。試合は珍プレーや好プレーに一喜一憂、Bチームが5戦全勝で優勝。安部宣明監督写真右は「やったね・



・今日のメンバーをみて勝てる予感があった・・・とスピーチもなめらか。準優勝はCチーム、4勝1敗に

貢献したTNB加藤真紀選手写真左は「準優勝とっても



幸せです。何よりもいろんな方々とペアくんでのプレーが楽しかった」と微笑んだ。スピーディーな運営の協会役員



写真上 強力なサーブを打ち込む連坊チーム斎京子選手とパートナーの若林チーム斎京子。S&L大会ではの(ダブル京子)ラケット裁きもステップも軽やかな華麗なプレー 2人は「楽しかった」と口をそろえた。

みんなが気持ちよく大会に参加し、勝っても負けてもドンマイドンマイの声を出し心地よい汗を流していたようだ。

(仙台市 渡辺 勝利)